

# 農業のリーダーを育てる農業経営プラン

大山町

株式会社 齋藤農園

代表取締役社長 齋藤 伸一

はじめに

私は現在、施設園芸でメロンとスイカを栽培し、露地栽培で主にブロッコリーを作り、稲作でコメを生産しています。

農業を始めて21年たち農協の生産部でメロンとブロッコリーの役員として作物の生産の手法や管理の仕方、出荷方法などを指導しながら作物を栽培しています。

これまでの私の農業経営はどこにもあるような家族だけで栽培を行っているものでした。長く農業をしていますが、他の個人経営者が病気や事故で営農が突然できなくなっても、人の作業に協力する余力もありません。病気などで急に農業が出来なくなる場合もありますし、そうなる次から作物が栽培されることもなくなり、農地が耕作放棄地となってしまいます。私にも子供はいますが農業の後継者として働く可能性はゼロに近い状態で、自分がいつそのようになってもおかしくないと思っています。地域の現状を見ても私のように後継者がいない農家も多いことから、このままの状態では耕作放棄地は今後どんどん増えていくと思います。鳥取西部農協ブロッコリー部においても、現在は作付面積・販売金額は右肩上がりで若い新規就農者が増えてきていますが、あと何年農業を続けてい

けるのか分からない、後継者のいない農家が大半です。メロン部でも、名和では20年前には20数名の生産者がいましたが、現在では9名になり数年後には5名程度になってしまう恐れがあります。どの地域も同様の問題があると思います。

また、どこの農家も手一杯に仕事をしないと生活ができないのに加え、年をとっても働かないと借金を返せないし生活もできなくなってしまう。

以上のようなことから農業の個人経営の限界を感じていました。

また、増えている新規就農者の中には、頑張っただけでも作業手順の悪さや品種の特性が解らないことによる栽培ロス、作業の遅れによるロスなどがあって経営が厳しい人もいます。どんな作物でも同じような環境にあると思いますが、これからはTPP問題などがあり農業経営がさらに難しくなり、農業者自身がよりしっかりした経営理念を持つことが必要になるように思われます。

このような現状の中で、私も■歳となりあと10年農業をやりながら自分のすべきことを考えた結果、新たに農業を始める次世代の農業のリーダーを育て「経営の成り立つ農業」のやり方を教えていくことにしました。

私 1 人では野菜を栽培しながら新規の農業者を指導することは出来ませんが、幸いにも戸崎さんという農業経験豊富かつ優秀な指導者となり得る従業員を雇用することができ、このたび株式会社「齋藤農園」を設立することで新規就農者を農業者として育成・自立させる環境を整え、新しい農業のリーダーを育てる農業経営プランを作成することができました。

株式会社化して「経営の成り立つ農業」を実現していける新規の農業リーダーを育てることで、①自社経営を受け継いでもらう、②独立就農して地域の担い手となってもらい、③後継者のいない農家の受け皿となって農業基盤を引き継いでもらう、等により後継者問題も解決しますし、このような農業者を育てていくことが齋藤農園の役目だと思っています。自分と指導者の2人体制でしっかりサポートすることで「経営」と「栽培」の両方の面に優れた人材を育成できますし、農業のリーダーにふさわしい農業者を育てていきたいと思っています。

経営プランでは、耕作放棄予定地の情報をいち早く収集してブロックリーを作付けし、地域の農地保全に努めながら齋藤農園経営を安定させるとともに、農の雇用制度なども利用して野菜全般の栽培

と経営の出来る農業者を育てていきたいと思っています。しかし、規模拡大を図る上では従業員の休憩場も兼ねた作業場の拡大整備、不足する労働力を補うための機械設備の新規導入等が必要となります。

そこで関係機関の協力を得ながら、地域に愛され任される会社を目指し、農業のリーダーを育てる農業経営プランの実現に向け頑張っていきます。よろしくお願いします。

## 1 現在の概況

### ① 労働力 (H25年 現在)

	氏名	年齢	年間労働日数
本人	齋藤 伸一	■才	300日
妻	■■■■■	■才	200日
従業員	■■■■■	■才	240日

※ 従業員については H25 年度途中に雇用のため労働日数 240 日

② 主な機械・施設の概要

機械・施設	活用	台数	能力・面積	導入年次
パイプハウス	メロン・スイカ	8棟	1364 m <sup>2</sup>	、平成3年
パイプハウス	メロン・スイカ	3棟	561 m <sup>2</sup>	平成24年
育苗ハウス	ブロッコリー	2棟	188 m <sup>2</sup>	平成23年
トラクター	ブロッコリー・ 水田	1台	31 p s	平成24年
トラクター	ハウス専用	1台	21 p s	平成18年
ツインモア	畔草刈り機	1台		平成25年
動力噴霧器	野菜全般	1台		平成21年
管理機	ブロッコリー	1台		平成23年
定植機	ブロッコリー	1台	自動	平成16年
土壌消毒器	ハウス用	1台		平成23年
トラック	農業	1台	850 k g	平成18年

2 栽培面積の現況と目標

単位 (a)	H24 (実績)	H25	H26	H27	H28
初夏ブロッコリー	200	140	250	300	350
秋冬ブロッコリー	300	500	600	700	800
メロン	8	10	12	15	20
スイカ	5	3	5	5	5
稲作	56	56	56	56	56

労働力計画

	H25	H26	H27	H28
本人	300日	300日	300日	300日
妻	200日	200日	200日	200日
従業員	240日	300日	300日	300日
従業員		300日	300日	300日
従業員		300日	300日	300日

		H24(実績)	H25	H26	H27	H28
初夏ブロッコリー	面積(a)	200	140	250	300	350
	生産量(10a当り)	840	900	900	900	900
	生産量合計	16800	12600	22500	27000	31500
秋冬ブロッコリー	面積(a)	300	500	600	700	800
	生産量(10a当り)	820	900	900	900	900
	生産量合計	24600	45000	54000	63000	72000
メロン	面積(a)	8	10	12	15	20
	生産量(10a当り)	2450	2500	2500	2500	2500
	生産量合計	1960	2500	3000	3750	5000
スイカ	面積(a)	5	3	5	5	5
	生産量(10a当り)	3500	3600	6000	6000	6000
	生産量合計	1079	1080	1800	1800	1800

※ 生産量の単位は kg

### 3 現在の耕作地と目標

単位(a)	H24 (実績)	H25	H26	H27	H28
自作地	180	180	180	180	180
借地	360	360	450	600	700
合計	540	540	630	780	880

### 4 農業経営の問題点と課題

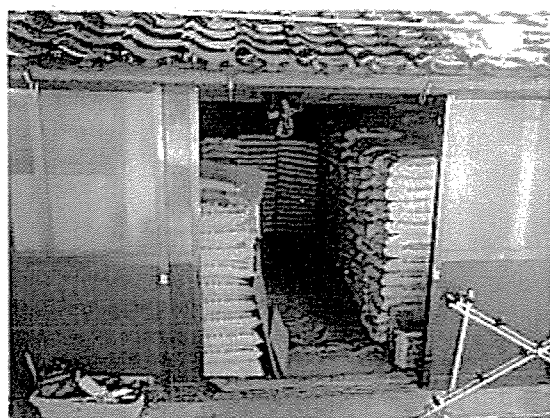
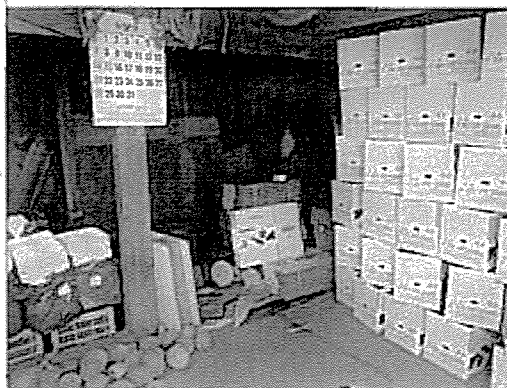
#### ① 作業場が狭い

現在の作業場は作業スペースが約 30m<sup>2</sup> と狭く、肥料置き場等に使っているスペースを合わせても 50 m<sup>2</sup> しかありません。作業スペースの狭さから、ブロッコリーの箱詰め作業で 1 日当たり 120 ケース作って出荷するのが限界で、最近雇用した従業員を合わせた 3 人で作業するのも困難な現状です。また、スイカ・メロンの箱詰め・出荷作業にも苦勞しています。

今後さらに従業員を雇用し規模を拡大すると、最低でも肥料置き場や作物の収穫時期が重なっても作業することができる作業場（ブロッコリー 1 日当たり 300 ケース・メロン 200 ケース）として 200 m<sup>2</sup> 位が必要になり、今のままでは規模を拡大する



ことができません。



## ② 機械が足りない

規模を拡大しても現在所有している装備・機械ではハウス作業、除草作業、肥料の散布、耕耘作業などが重なることによって生じる、装置の取り換え等の時間ロスが多く機動力が発揮できない上、スムーズに新規就農者への機械の使い方を指導できません。また、時間のロスが多く作業が遅れると全ての作業がずれ込み、計画通りに作業を行えなくなるため作業だけでなく経営

にも影響が出てきます。従業員に、決められた時間内で効率よく作業してもらい、かつ経営を安定させるためにも機械を用いた作業省力化が必要です。

### ③ 施設の作物には川の水を使用

人でも飲めるきれいな水で作物を栽培したのですが、水道の水を使用すると経費が掛かり採算に合いません。そのため、水田の排水路より水を吸水しているのですが、除草剤の使用時期や洗剤の泡立ち等がある場合は吸水に非常に注意がいりますし、今年みたいな水不足であれば必要時に作物に水を供給することができません。

## 5 問題点に対する解決策

① ブロッコリーを箱詰めする場所や肥料を置く場所、農薬庫、従業員が休憩するところや農機具を格納することができる作業場を建設したい。(別紙)

### ②

#### (1) トラクター

現在所有しているトラクターはそれぞれハウス専用と、除草・フレールモアでのすき込み・肥料散布専用として使用し、馬力

の大きい耕耘専用のトラクターを導入することにより従業員に決められた時間内で効率よく作業をさせることができます。将来、従業員が自分で考えて作業をする際、適切な労働時間で経営を安定させることの重要性を理解してもらいたいと思いますし、そのためにも規模に応じて機械器具を充実させ、従業員に効率よく作業してもらいたいと思います。

特に除草については、ツインモアーという畦草刈り機を現在のキャビン付きトラクターに装着することで、天候に関係なく早く大面積の畦草を刈ることが出来ます。畦草を放置しておくと害虫発生に繋がるため除草は必須ですが、近年の猛暑の中、草刈り機で除草を行うのは熱中症のリスクも高まり体に負担が大きいですし、安全のためにも現在のキャビン付きトラクターは除草に役立てたいと思います。そうすると作業の重複からもう1台トラクターが必要となるため、新たに導入したいと考えています。

※新規に導入するトラクターの馬力については、規模決定根拠から算出し、44psが妥当と判断。別紙参照

(2) ブロウドカスタ

面積拡大に応じて肥料の散布に係る労力が大きくなることからブロードカスタ（肥料散布機）を導入し、肥料散布の省力化を図りたいと思います。肥料散布は作物栽培では必須の作業であることから規模拡大には必ず必要となります

### （3）全自動定植機

現状の定植機 1 台では 1 日当たり 20 a しかブロッコリーを定植できませんが、もう 1 台性能の良い新しい定植機を導入することにより 2 台で 1 日当たり 50a 定植することができ、作業性が向上します。ブロッコリーは一定した収穫を行うために、数種類の品種を時期を分けて定植しますが、9 月 1～10 日の間は数種類の品種の定植＋種まき＋中耕作業の 3 つの作業が重なってしまいます。秋冬面積 8 ha のうち、2 ha 程度は 9 月 1～10 日に定植が必要ですし、天候や作業の重なり等を考慮した 9 月の定植作業可能日数を考えても、規模を拡大すると 1 日に 50 a の定植を行う必要がある日が必ずでてくるので、規模拡大に役立つためにも新たに 1 台導入したいと思います。

### （4）乗用管理機

現在、ブロッコリーの中耕作業を全て 1 輪の管理機を使って行

っていますが、面積拡大に応じて作業にかかる労力が非常に大きくなってきます。3連の乗用管理機を導入することで作業効率は3倍以上になりますし、効率化を図るためにも是非導入したいと思います。

#### (5) フレールモア

フレールモアを使うことで、収穫後のブロッコリー残渣を細かくすき込むことができ、次作の圃場準備に役立てることが出来ます。また、連作を避けるためにもブロッコリーの後作には圃場に緑肥を栽培して地力増進を行い、環境に優しい農業をしていきたいと思っています。緑肥を細かくすき込んで土の中で分解させることで始めて土の改良に繋がるため、フレールモアですき込むことが必要ですし、是非導入したいと思います。

- ③ 井戸ポンプを掘削して作業場に飲める水を供給し、川の水に変わり井戸のきれいな水を施設園芸作物に使用することで安全で安心できる作物を栽培したいと思います。

## 6 地域への波及効果

① 次世代の農業リーダーを育てる農業経営を実現することにより、地域の手本になり新規で農業に就農する人が増え、地域の農業の発展に貢献できると思います。

また、新規に就農する人を雇用することにより、野菜の栽培のやり方・耕作地の管理・出荷の仕方を徹底的に鍛え地域の農業を守るリーダーを育てていきます。

② 農業経営を大規模化することによって、地域の雇用・後継者問題の解決・耕作放棄地の保全・有効利用などに役立つと思います。

③ 安全安心で品質の良い農産物を生産することに努め、他の農業者の手本になることができます。

④ 株式会社化し、安定した経営を行うことで地域の農業経営の手本（モデル事例）になることができると思います。

7 具体的な取り組み

	H25	H26	H27	規格	事業費 (千円)	事業主体
作業場	◎			別紙		県・町・ 本人
井戸ポンプ	◎					県・町 本人
トラクター		◎		44ps		県・町 本人
定植機		◎		全自動		県・町 本人
ブロードカスタ		◎				県・町 本人
乗用管理機		◎				県・町 本人
フレールモア		◎				県・町 本人
簿記記帳による 経営分析	○	○	○			JA・普及所 本人
農産物の研修	○	○	○			JA・普及所 本人・従業員

◎ は補助金

支援事業内容

単位千円

農業機械	規格・性能	事業費	負担区分
作業場	200m <sup>2</sup>	14,000	県 1/3 町 1/6 本人 1/2
井戸ポンプ		4,000	
トラクター	44ps	6,295	
全自動定植機		1,441	
フレールモア		694	
ブロードカスタ		246	
乗用管理機		2,281	

作業工程フローチャート

作業内容	現状	改善後
1、耕耘	耕耘、除草、すき込み、肥料散布が重なる時期があり、器具を付け替える手間も非常にかかる。特に耕耘の回数が減ると土が硬くなり作物の生育が悪くなる。	耕耘専用のトラクターを導入することで、耕耘作業と同時に畦草刈り、肥料散布、すき込みを行うことが可能となり、作業効率は大幅に向上する。また耕耘の回数も増え、作物の生育も良くなる
2、肥料散布	散布機が無いと、肥料の種類も多く、何種類も繰り返し播くことになり労力が大きい	肥料散布機を使うことで広範囲に多くの肥料を、早く撒くことができる。
3、ブロッコリー定植	全自動定植機1台では1日に20aの定植が限界。定植ピークには天候や他の作業等との兼ね合いで20a以上の定植が必要となる。	全自動定植機2台で同時に移植することによって定植ピークにも大面積にブロッコリーを定植できる。
4、中耕管理	1連の管理機で中耕すると、1畝ずつしか中耕できないため10aでも非常に時間がかかる。年間11haの面積を最低2回は中耕する必要があり1連の管理機ではとんでもない労力となる。	3連の乗用管理機を導入することで3畝同時に中耕可能。乗用管理機では中耕のスピードも上がるため、作業効率は3倍以上となる。また、中耕と同時に追肥も可能であり、追肥に係る労力も減る。
5、箱詰め作業	スペースが狭く、3人以上で作業をするのは無理。規模を増やして収穫量が増えても、出荷調整作業を行うことができない。	広い作業場にすることで、大人数で作業可能。またそれに伴い、出荷出来る農産物も増え規模拡大が出来る
6、残渣すき込み	フレールモアを使わないと大きな残渣が残り次作の生育に影響が出る。また緑肥も細かくすき込まないと地力増進の効果が十分に得られない。	フレールモアで残渣をより細かくすることで、作物の生育の妨げがなくなる。また、緑肥の効果も大きくなり、生育促進に繋がる